

2010年(平成22年)3月10日(水曜日)

検察捜査で持論展開

河上弁護士招き講演会

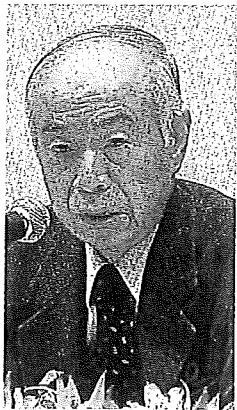
宮坂建設工業

弁護士で元最高検公判部長
・東京地検特捜部長の河上和雄氏を講師に迎えた時局講演会が9日午後6時、帯広市内の北海道ホテルで開かれ、河上氏が政治情勢と検察の関係について歴史的な経緯を交えて紹介した。

宮坂建設工業(帯広市、宮坂寿文社長)の主催。同社は社会貢献活動として札幌で時局講演会を開催している。帯

広開催は初めて。1000人以上が参加した。

河上氏は、取り調べの全面可視化について「予算はかか



最近の政治情勢と検察について講話する河上氏

るが、時代の趨勢(すうせう)からある程度やらなければならぬ」「時効制度の廃止に関しては「被害者がおおざりになっているわが国の法律体系に問題がある」などと持論を展開。

政治と検察の関係については「昭和30〜40年代、ロッキード事件のあった50年代を経て、特に政治家の事件は非常に慎重な捜査が行われるようになってきた。国民に選ばれた政治家を逮捕するのは難しいし、現在も少ない」と述べた。民主党の小沢一郎幹事長をめぐる報道に対する「検察のリークではないか」との意見については「捜査が難しくなるだけで検察にとってプラスになることは何もない」と否定的な見方を示した。

会場との質疑応答の中では地元選出の石川知裕衆院議員が

逮捕され、小沢幹事長が逮捕されなかったことに関する質問があり、河上氏は「本人の口から出てくる直接の証拠が無い中、集めた周辺証拠だけで良いのかどうかを考え方の分かれ目になった」と述べた。
(犬飼裕一)